

# 令和2年度 学校経営方針 「それでも、どうしても、」

多摩市立南鶴牧小学校  
校長 関口 寿也

## 1 はじめに

未曾有の幕開けである。コロナウイルスは私たちの生活を直撃し切迫している状況であるが、足元に迫っている物事はそれだけではない。文部科学省が新指導要領の発表時に添えた、「これからの10年間は予測困難な時代である」との言葉は、まさに今の世界を指し示しているものであろう。

現在の教育の使命は何か。その根底には、持続可能な社会の構築という命題がある。2030年までの到達目標を示したSDGsは、当面の課題であり、その先にもずっと続いていく。予測困難な時代に生きていく子供たちをいかに支え、英知を授けていくか。私たちが教育という枠の中で学んでこなかったことを、目の前の子供たちに学ばせていくことが求められている。

教育の使命は何か。私たちはこれまで以上にそのことを考え、明確にし、具体的な策をもって教育に当たらなければならないと考える。まずは私たち教師自身が、関心をもって意識的に世界の現状を知り、一人一人がその対策を考え、意志表示をし、できることを自ら実践していくことが必要である。一個の地球人としての存在、その延長上に、私たちが生業とする教育活動がある。校内研究や内外の研修会、交換授業等を通して授業力を磨き、協働する中でより良い効果を上げる必要がある。

悠長ではなく、待たなしの状態に世界があることをどうか理解されたい。そして、その未来が子供たちにかかっていること、だからこそ教育にかかる期待、可能性が大きいということを感じてほしい。

いかなる出来事、いかなる状況、いかなる難題が眼前に横たわったとしても、「それでも、」「どうしても、」子供たちに見せてあげたい、教えてあげたい、身に付けさせてあげたい、その意識を欠くことなく教育活動を実践していきたい。そして、子供たちが「それでも、」「どうしても、」という不屈の精神をもって世界を泳いで行ける人材に育つよう、日々の教育活動を積み重ねていきたい。学校が教育の中核的役割を担い、地域、家庭、外部機関とより一層緊密な連携のもと、未来への人材育成を推進していくことが、本校が持続発展可能な学校として進んでいく意義である。

## 2 学校経営の基本理念

- (1) 子供の側に立った教育活動を推進し、生きる基盤となる「知」「徳」「体」を育む。
- (2) 持続可能な社会づくりに資する人格形成を、卒業までのスパンで意識し行う。
- (3) 諸施設、人材といった地域資源・環境資源や家庭と連携・協力し、教育力の相乗効果を生む。

## 3 学校教育目標 ◎かしこく なかよく たくましく

### 4 教育目標の達成に向けて

#### (1) 「かしこい」児童を育てるために

##### ① 「学習規律の確立」

- (ア) チャイムで始まりチャイムで終わる授業。
- (イ) 学ぶ姿勢、意欲の保持と、教室環境の整備・維持。
- (ウ) 清潔、清楚を心がけた、さわやかな教員の身だしなみと、丁寧な言動。

##### ② 「基礎学力の習得」

- (ア) 授業時数を確保し、子供が「わかった」「できた」と実感できる授業。

- (イ) 授業改善推進プランに沿った指導計画と実践、学期ごとの検証。
- (ウ) 「算数習熟度別授業」「東京ベーシックドリル」「モーニングプラス」「夏季ぐんぐん教室」による基礎学力の向上。(水木金 7:45～8:15)
- (エ) 校内研究、南鶴道場、授業参観週間、少人数指導、研修会等を活用した授業の工夫・改善と授業力向上。
- (オ) 市立図書館、学校図書館の活用、読書活動(含並行読書、朝読書、読み聞かせ)の推進。

### ③「学びの質を高める」(含ESD)

- (ア) 持続可能な社会を創る人材の育成を教育の大命題とする。
- (イ) 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」について明確化。
- (ウ) 恒常的な交換授業による意図的・計画的な学びの工夫、授業の質向上。
- (エ) 全校児童の「自主学習」による、家庭と連携した個に応じた家庭学習の定着。及び児童・保護者への公表による学習意欲の喚起。
- (オ) 「総合的な学習の時間」を核としたカリキュラム・マネジメント、及びホールスクールアプローチでの教育活動の推進。
- (カ) 協働による体験活動を出発点とした学びの深化。予定調和でない学習計画。
- (キ) 問題解決学習の繰り返しの実践による、主体的・対話的で深い学びと成果としての資質・能力の向上。(校内研究での指導力向上、総合的な学習の評価の転換)
- (ク) 下学年や協力者、保護者への発表の場を複数回設けることでの、実践意欲の喚起と継承。

## (2) 「なかよく」できる児童を育てるために

### ①「道徳教育の充実」

- (ア) 指導の重点、B「親切・思いやり」の学級経営、自己申告書への盛り込み。
- (イ) 道徳教科書の活用。保護者、GT等の授業への協力の推進。
- (ウ) 学びを振り返ることのできる道徳ノートや掲示、及びキャリア・パスポート。
- (エ) 学校公開における年間2回以上の積極的な授業公開。(道徳授業地区公開講座を1回とする)

### ②「生活指導の充実と徹底」

- (ア) 学級の様子、保護者や学童、関係諸機関との情報交換を通じた児童理解と指導。
- (イ) 言語環境の整備。(あいさつ、正しい言葉遣い)
- (ウ) 「学校生活の約束」を使ったルールの理解と順守。
- (エ) 「学級経営」「道徳授業」「生活指導講話」「いじめアンケート」「いじめ防止対策委員会」「いじめ防止基本方針」の粛々とした履行による、いじめの未然防止、早期発見、子供たちが安心・安全に過ごせる対応。

### ③「人との関わりを重視した教育活動の実践」

- (ア) たてわり活動、なかよし登校、1年生のお世話等を通じた異年齢児童との関わり。
- (イ) 行事や授業を通じた、地域の方々やお年寄り、外国の方々、保護者等との関わり。
- (ウ) 特別支援学級ふたば、特別支援教室わかば在籍児童との関わりと理解。

## (3) 「たくましい」児童を育てるために

### ①「運動に親しむ資質や能力の育成」

- (ア) オリパラ教育や体育的行事、体育の学習、遊びを通じた運動する楽しさの実感。
- (イ) 芝生校庭を活用した、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成。

### ②「体力の向上」

(ア) 芝生校庭を活用した健康教育や保健指導。はだしの活動の推奨。

(イ) 体力テストの結果を踏まえた「一学級一実践」の実践。

### ③「健康の保持増進」

(ア) 定期健診および、日々の健康観察を通じた児童の健康状態のチェック。

(イ) 月一回の「アレルギー対応委員会」の主導による、アレルギー疾患児童の把握と対応。共通理解による事故「0」。

(ウ) 「食物アレルギー緊急対応マニュアル」に基づいた実践的な教員研修の実施。

### ④「心のたくましさを身に付ける」

(ア) 委員会活動、募金活動、芝生維持活動等、継続的な活動を通じたボランティアマインドを育む指導。

(イ) 行事、継続的な学習活動等を通じた、くじけない心の育成と支援。やり切った充実感、達成感の実感。

## (4) 特色を活かした取り組み

### ①芝生の校庭

(ア) 芝生校庭での活動を通じた、心の安定。

(イ) 芝生の維持管理活動を通じた愛校心・地域愛の育成。

### ②様々な体験学習

(ア) ビオトープや芝生、果樹のなる木、野鳥観察、近隣公園を活用した環境教育の推進。

(イ) 農園活動や小動物の飼育、校内に生息する昆虫等を通じた、生命を大切にする心情の育成。

### ③オリンピック・パラリンピック教育

(ア) 藍の生育と藍染めの体験による、伝統文化、国際理解教育の実践。

(イ) ユネスコスクールとして、学習活動を校内や国内外で発表・報告することを通じた、郷土愛、相互理解の育成。

(ウ) 幼保中、異年齢、他施設との関わりを通じたボランティアマインドの育成。

(エ) オリンピアンや国際貢献活動に携わる方の講話や指導による、情操、実践力の育成。

### ④特別支援教室「わかば」との連携

(ア) 特別支援教室の指導法や教材教具の活用による、普通学級での合理的配慮の実践。

(イ) わかば教員と普通学級教員との交流によるT2としての授業支援。(双方向)

(ウ) ソーシャルスキルトレーニングの協働実施(1,2年生、1,2学期計10日間)。

(エ) 普通学級の給食時間にわかば教員配置。

### ⑤特別支援学級「ふたば」との連携

(ア) 特別支援学級児童の普通学級への交流活動による、互いの理解と共生。

(イ) 特別支援研修会の実施における、事例共有と指南。

(ウ) 専門性向上研修を通じた授業公開と研修。

### ⑥特別支援ファイルの引継ぎ(各学級担任)

(ア) 支援を必要とする児童の個別指導計画の作成と、特別支援ファイルの確認、補充。

(イ) 保育・幼稚園指導要録抄本の確認。(1年生担任)

### ⑦合唱団の活動

(ア) 教育課程に位置付けた合唱団の活動支援。(部活動)

(イ) 学校に響く歌声により、音楽のすばらしさや歌う楽しさの実感。

(ウ) やり遂げる充実感、発表での達成感の、がんばる姿としての見本。

(エ) 地域での合唱披露による交流、連携。